

2024年度 春学期 上智大学 グリーフケア人材養成講座 聴講生 募集要項

1. 聴講制度

東京のグリーフケア人材養成講座修了生を対象に、本講座で開講している授業科目のうち水曜日(オンライン授業)開講の科目について、授業の運営に支障のない範囲で、聴講を認める制度です。ただし、ご自身が修了した課程までの科目が対象となります。例えば、グリーフケア人材養成課程を修了した方の場合、資格認定課程の科目を聴講することはできません。

修了した課程またはコースの名称	人材養成課程の科目	資格認定課程の科目	専門課程の科目
グリーフケア人材養成課程	○	×	専門課程には聴講対象となる科目はありません。
資格認定課程	○	○	
専門課程	○	○	
臨床コース	○	○	
基礎コース・臨床傾聴士講座	○	×	
基礎コース	○	×	

※聴講生として科目を履修しても、単位の取得および成績評価を受けることはできません。

2. 聴講可能な科目は、1科目のみです。複数科目の同時聴講はできません。

3. 聴講できる科目は、以下7.の聴講開放科目一覧に記載されている科目のみです。

4. 出願

出願期間：2024年3月25日(月)～3月31日(日)23時59分

出願方法：以下のURLまたはQRコードからMicrosoft Formsにアクセスし、「聴講生願書」に必要事項を入力の上、送信してください。



<https://forms.office.com/r/fHYx2SQwRF>

5. 決定通知

2024年4月2日(火)に、メールにて聴講を許可した科目の決定通知を連絡いたします。その際に、受講料の納入方法も説明いたします。

6. 聴講料の納入

2024年4月2日(火)から4月10日(水)までの間に、聴講料(1単位あたり12,000円)を納入いただきます。1科目24,000円となります。

納入いただいた聴講料は、当該科目が開講中止となった場合を除き、返還いたしません。

7. 聴講開放科目(2024 年度春学期【東京】)

※聴講可能な科目は、水曜日開講の授業で、すべてオンライン授業(Zoom)で行います。

※聴講可能な科目は、輪講形式で行います。各回の担当教員については、シラバスを参照してください。

※2023 年から水曜日の授業開始時間が 18 時 30 分となっておりますのでご注意ください。

課程	曜日	授業時間	科目名	講義回数	単位数	コーディネーター
人材養成	水	18:30~20:00	グリーフケア原論	15	2	葛西賢太
		18:30~20:00	グリーフケア援助論	15	2	栗原幸江
資格認定	水	18:30~20:00	精神医学・精神保健	15	2	岡村 毅

【2024 年度春学期授業日程】

【春学期】

	水曜開講日
1	4月17日
2	4月24日
3	5月1日
4	5月8日
5	5月15日
6	5月22日
7	5月29日
8	6月5日
9	6月12日
10	6月19日
11	6月26日
12	7月3日
13	7月10日
14	7月17日
15	7月24日

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア原論		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	1年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	葛西賢太(コーディネーター)、伊藤高章、栗原幸江、大村哲夫、山岡三治		
講義概要	<p>上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの基礎を形成する入門科目。 当研究所は、グリーフ(悲嘆)を死別に伴う心的過程に限定せず、人生に不可避な様々な喪失体験に伴う心の反応と考え、ケアの対象と考えている。したがって、グリーフケアは、人生の危機に直面した人間性への総合的なケアである。また、グリーフは、人間のスピリチュアリティの最も根源的な表現でもあり、グリーフケアはスピリチュアルケアの基礎である。 この講義では、グリーフケアとは何かについて全体像を学ぶとともに、ケア提供者の姿勢についての理解を深める。特に、精神医学的・心理学的な援助にくわえて、思想・宗教・伝統・文化の歴史性・多様性に注目しつつ行われるグリーフケアの背景と、その実践的、理論的理解を図る。 適宜、ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図るとともに、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。</p>		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1)上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの焦点と受講生に求められる能力について理解する。 2)グリーフケアの全体像とケアの特徴を理解する。 3)グリーフケアとスピリチュアルケアの関係を理解する。 4)グリーフケア、スピリチュアルケアにおけるケア提供者の姿勢について理解し、実践力の基礎を養う。 		
評価	学期末レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	葛西	イントロダクション、グリーフケアの位置づけ(1)
	第2回 (4/24)	葛西	グリーフケアの位置づけ(2)
	第3回 (5/1)	葛西	グリーフケアの位置づけ(3)
	第4回 (5/8)	葛西	グリーフケアの位置づけ(4)
	第5回 (5/15)	葛西	グリーフケアの位置づけ(5)
	第6回 (5/22)	伊藤	グリーフケアの理論(1)
	第7回 (5/29)	伊藤	グリーフケアの理論(2)
	第8回 (6/5)	伊藤	グリーフケアの理論(3)
	第9回 (6/12)	栗原	グリーフケアの実践(1)
	第10回 (6/19)	栗原	グリーフケアの実践(2)
	第11回 (6/26)	栗原	グリーフケアの実践(3)
	第12回 (7/3)	大村	グリーフケアのこころみ(1)
	第13回 (7/10)	大村	グリーフケアのこころみ(2)
	第14回 (7/17)	大村	グリーフケアのこころみ(3)
第15回 (7/24)	山岡	グリーフケアと葬祭	
教科書・参考書	<p>参考書: 『増補版 悲嘆学入門』(坂口幸弘)昭和堂 ISBN: 978-4-812-22127-3 『ともに悲嘆を生きる』(島菌進)朝日新聞出版 ISBN:978-4-022-63082-7 『グリーフケア入門』(高木慶子 編)勁草書房 ISBN:978-4-326-29900-3 『死ぬ瞬間ー死とその過程について』(E・キューブラー・ロス)中公文庫 ISBN:4-12-203766-2</p>		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア援助論		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	2年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	栗原幸江(コーディネーター)、伊藤高章、佐々木炎、小川有閑、入江杏、田村恵子、石井慶子、生田かおる		
講義概要	<p>さまざまな臨床現場のケア実践者を招き、グリーフケアの広がりとその実際を知る。グリーフケアは医療現場に限らず、さまざまな現場・臨床において実践されている。本講義では、具体的な領域でケアに携わっている講師により、ケアの特徴や課題について学ぶ。</p> <p>随時ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図ると共に、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを共に検討する。</p>		
授業目標	<p>1)グリーフケアの多様な展開を理解する。 2)さまざまなグリーフケアに共通するケアの視点・方法を理解する。</p>		
評価	学期末レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	栗原	グリーフケアのさまざまな現場
	第2回 (4/24)	佐々木	臨床の知、老いのグリーフとその価値
	第3回 (5/1)	佐々木	認知症のグリーフとその価値
	第4回 (5/8)	小川	グリーフケアにおける子どものケア
	第5回 (5/15)	小川	僧侶として自死遺族に向き合う
	第6回 (5/22)	入江	突然の喪失悲嘆からの再生を模索する
	第7回 (5/29)	入江	悲しみとともにどう生きるか
	第8回 (6/5)	石井	周産期喪失悲嘆とそのケア
	第9回 (6/12)	伊藤	チャプレンとしての活動の場を拓く
	第10回 (6/19)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助(1)
	第11回 (6/26)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助(2)
	第12回 (7/3)	生田	ナラティブ的傾聴法
	第13回 (7/10)	生田	感情の共同化と人生の再構築
	第14回 (7/17)	栗原	援助者のグリーフ(1)
第15回 (7/24)	栗原	援助者のグリーフ(2)	
教科書・参考書	各講師が指示する		

課程	資格認定課程		
科目名	精神医学・精神保健		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	岡村毅(コーディネーター)、宇良千秋、栃木衛、滝沢龍、東海林良昌、小川有閑、高瀬顕功、郷堀ヨゼフ、管心、的場由木、井藤佳恵、分田貴子		
講義概要	講義は二部構成である。第1部では岡村が精神医学・精神保健について基礎的なことを伝える。なるべく平易な言葉で、わかりやすく、バランスよくお伝えしたい。第2部では一流の講師陣を招待した。グリーンケアという新しい潮流に意義を感じてわざわざ来て下さるので、熱意と節度をもって聴講してほしい。		
授業目標	精神医学的思考が好きか嫌いかは関係なく、この領域で活動するのであれば必須の知識を得ること。		
評価	レポート50%		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	岡村	精神医学とは何か、表象と精神医学：世界の新しい見方
	第2回 (4/24)	岡村	統合失調症、発達障害：正常と異常は分けることができるか
	第3回 (5/1)	岡村	感情障害、パーソナリティ障害、認知行動療法：こころの安寧を得るには
	第4回 (5/8)	岡村	老年精神医学：健康長寿社会で何が起きているのか(もともと5月11日)
	第5回 (5/15)	岡村、宇良	認知症ケア学：新世紀のケアをもとめて
	第6回 (5/22)	岡村	社会精神医学：貧困にあるひとを支援するには
	第7回 (5/29)	東海林、小川、高瀬、郷堀	精神科医と宗教者の協働に関する最先端の研究について、僧侶と研究者からなるチームが紹介します。
	第8回 (6/5)	滝沢	逆境体験の長期的影響を科学する
	第9回 (6/12)	栃木	遺伝子研究
	第10回 (6/19)	栃木	総合病院の緩和ケアチームの一員として精神科医は何をしているのか
	第11回 (6/26)	管	リハビリ～統合失調症と共に生きる～
	第12回 (7/3)	的場	ホームレス・生活困窮者支援の現場から
	第13回 (7/10)	井藤	臨床倫理
	第14回 (7/17)	分田	治療による見た目の変化へのケアとQOL
第15回 (7/24)	分田	患者生活を支える医学	
教科書・参考書	<p>何事もそうですが、初めは普通の知識をさっと身につけた方がよいでしょう。『精神神経疾患ビジュアルブック』(学研メディカル秀潤)ISBN:978-4-7809-1160-2 は絵も多く分かりやすいですが買わなくともよいです(私も書いているので利益相反が多少ある)。松本 俊彦の『誰がために医師はいる』はとても内容が濃く、本物の精神科医の本です(皆さんうすうす感じていると思いますが、売ってる本は本職から見るとイロモノが多いです)。東畑 開人の『居るのはつらいよ：ケアとセラピーについての覚書』も精神科病院の空気感がよくわかる本です。</p> <p>(注)なお、当事者系の本や、オープンダイアログの本は、面白いですが、皆さんが読みたがるのは重々分かっているのですが、「こころ病む人のケアをしたい→まずは専門家になるために様々な知識を仕入れる→現場に出て理論と現実のギャップに驚き絶望する→現場で修羅場をくぐり現場を回せるようになる→やっぱり何か違うよなと思う→現場を変えるべく改めていろいろと学びたいと思う」という一連の動作の後に読むと、読み方がだいぶ違う(深く読める)と言っておきます。</p>		